県政だより 福井県

新春対談

福井の歴史を全国に発信

福井県は、今日まで様々な分野で活躍し、業績を残した人物を輩出してきました。

平成28年の新春を迎え、西川知事と歴史家・作家の加来耕三さんが、ふるさと福井の偉人の業績や、それを学び伝える方法について語りました。

加来 耕三さん
歴史家・作家（昭和33年 大阪市生まれ）
奈良大学文学部史学科卒業後、学究生活を経て昭和59年に奈良大学文学部研究員。現在は大学・企業の講師を務めながら、歴史家・作家として著作活動を行っている。『歴史研究』編集委員。著書に「コミック版日本の歴史『由利公正』」（ポプラ社）など多数。

福井県の歴史

―福井県には、歴史上で活躍した人物が多いですね。

加来 実は、私の先祖は戦国武将朝倉義景の家来をしており、福井県にルーツがあります。福井県からは、様々な時代に多くの英雄や豪傑が出ています。県民の皆さんは、ぜひご自身の郷里を誇っていただきたいと思いますね。

知事 そうですね。最近は、ブランドとして盛り上げようという大きな流れがありますね。

加来 福井県が最も多くの偉人を出し、日本史に影響を与えたのは、幕末維新の時代です。諸外国への対応について、攘夷派と開国派で意見が分かれ争いましたが、福井藩は、日本という国全体のことだけを考え、常に中庸を貫いた立派な藩だと思います。

知事 福井県の偉人の歴史は古く、1500年前の継体大王から続いています。福井藩は、江戸時代に結城秀康公が興した68万石の大藩でした。幕末には藩主の松平春嶽公が幕府の要職に就き、積極的に人材を登用したため、橋本左内や由利公正など、日本史のほとんどの教科書に出てくるような人物が登場しました。

由利公正の活躍

―多くの偉人の中で、特に注目しているのは誰ですか。

加来 幕末に活躍した、由利公正を一番に挙げたいですね。彼の最大の業績は、明治政府が出した「五箇条の御誓文」の草案である「議事之体大意」を著したことです。あの坂本龍馬が新政府に推薦し、後事を託すために、わざわざ福井まで会いに来たほどの人物でもあります。

福井藩、そして明治政府で活躍し、後には東京の府知事になり、銀座の大火事を受け、全域を不燃性の煉瓦造りにして、現在の姿の原型をつくるなど、非常に時代を先駆けた人物だと思います。

知事 由利公正は、当時の日本で一番財政を理解していた人物でした。彼は、日本初の全国通用紙幣である「太政官札」への国民の信用を得ようと、明治政府の大きな方針を示す「議事之体大意」を著しました。その中では「万機公論に決し私に論ずるなかれ」「貢士期限を以て賢才に譲るべし」などと書いています。

議事之体大意

明治政府の基本方針を明らかにした「五箇条の御誓文」の原案となった。

一、庶民志を遂げ　人心をして倦まざらしむるを欲す
（皆が志を遂げられる世、人々の心が退屈してしまわない世にすべきである）

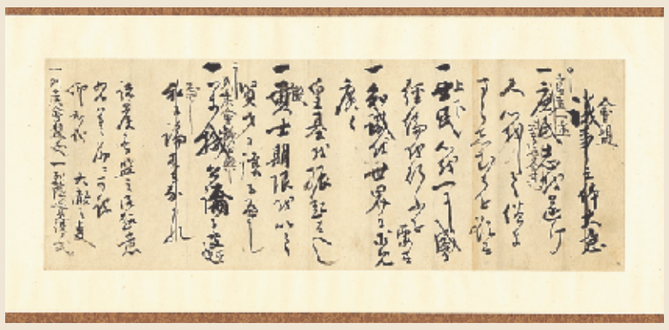
一、士民心を一にし　盛に経綸を行うを要す
（人々が心を一つにして、国家を治め整える策を盛んにすることが必要である）

一、知識を世界に求め　広く皇基を振起すべし
（世界から知識を吸収し、天皇が治める日本の国を発展させるべきである）

一、貢士期限を以て　賢才に譲るべし
（新政府の役人は任期制とし、賢く才能のある者が就くべきである）

一、万機公論に決し　私に論ずるなかれ
（何ごとも公の議論で決め、私事のために論じるのはいけない）

※（　）内は意訳



また、加来さんがおっしゃるように、坂本龍馬は由利公正と会うため福井に来たのですが、司馬遼太郎の小説『竜馬がゆく』の中で「竜馬がゆく」と書いてあるのは1か所だけで、しかも竜馬が春嶽公と由利に会うため、福井に向かうところにだけ使われている。由利をなんとかして明治政府に登用したいという一心で来たわけです。そのわずか10日後に、龍馬は京都へ戻り暗殺されてしまいますが、彼の推薦で由利は明治政府でも登用されたのです。

―他にも、数々の業績がありそうですね。

加来 幕末の動乱が沸点に達した時代に、一番最初に挙藩上洛を計画したのが福井藩です。四千人の藩兵を率いて京都へ上り、一気に泰平の時代をつくろうとしたわけです。最後の最後で実行には移されなかったのですが。

その後、八・一八クーデターから禁門の変（急進的な攘夷派である長州藩と、会津藩や薩摩藩など幕府軍との武力衝突）にいたる薩摩藩の作戦は、福井藩が挙藩上洛計画で実行しようと考えていた作戦でした。

―もしかしたら、福井藩を中心に時代が動いていた可能性もありますね。

知事 福井藩の考え方は素晴らしいものがあったと思います。

我々も、幕末の福井の人々の考え方をもっと見直し、勉強して、多くの方に知っていただく努力をしていきたいですね。

歴史家・作家 **加来 耕三さん**

由利公正（三岡八郎）
（福井市立郷土歴史博物館蔵）
「五箇条の御誓文」の草案「議事之体大意」を著した。挙藩上洛計画に際しては、薩摩・熊本の協力を得るため説得に奔走した。

福井県知事 **西川 一誠**

ふるさとの歴史を伝える

―偉人の業績を知っていただくには、どのような方法がありますか。

知事 学校で「ふるさと教育」を行っています。古代から現代に至るまでの先人を紹介する「ふるさとの先人100人」という教材を作成しており、中学・高校の授業などで活用する予定です。

映像やコミック、ドラマという方法もあると思います。そこで、偉大な先人である由利公正を主人公とし、福井県を舞台にしたNHK大河ドラマの誘致を進めています。加来さんにも、いろいろご指導いただいています。平成30年は明治維新150年の記念の年であり、福井しあわせ元気国体・大会開催の年でもあるため、この機会に由利公正の業績を発信したいと考えています。

加来 その機会に地元の歴史について知っていただくというのは、いいですね。

少年時代に由利は父親から「武士は藩から俸禄をいただいているが、お前は藩に対してどう尽くすのか」と問われました。農民や商人は、それぞれ働くことにより生活していますが、実際の生産の役に立たない武士は、何をすべきかと言うのです。それ以来、由利は一生懸命その答えを考え続け、やがて、領民や国民みんなの幸せのために働くことが武士の仕事だという考えに行き着きました。そこが由利公正という人物の、おもしろいところなんです。

―由利公正の他にも、たくさんの偉人について知っていただきたいですね。

知事 県立こども歴史文化館では、歴史上の偉人や、現在活躍している福井県ゆかりの方の業績を展示して、子どもの教育に役立てています。

幕末には、福井藩はもちろんのこと、最近は「天空の城」として有名な越前大野城がある大野藩、勝山藩、丸岡藩、鯖江藩、酒井忠勝公の小浜藩の人々も活躍しました。例えば、横井小楠と福井藩を結び付けたり橋本左内と交流のあった梅田雲浜や、「解体新書」を著した杉田玄白は小浜藩の人物です。鯖江藩主の間部詮勝は、色々な政敵との闘いがドラマとして大変おもしろいですね。

こうした様々な地域の力が福井の歴史を作ってきましたし、今日の我々の幸福度につながっているのだと思っています。

歴史上で活躍した福井県の人物を紹介（こども歴史文化館）

―最後に、お二人の今年の抱負をお聞かせください。

加来 今、"心豊かに生きるには どうしたら良いか"という本を執筆していますが、その中心人物の一人に、幕末福井の歌人・国学者である橘曙覧を登場させました。生活の豊かさよりも、心豊かに生きるということを一生懸命に詠んだ「独楽吟」は最高だと思います。福井には、こうした人物もいるんですね。由利公正を主人公とした大河ドラマが放送されるのなら、ぜひ橘曙覧にも登場してほしいですね。

知事 いいですね。ぜひ、大河ドラマの誘致を成功させたいと思います。そのために、由利公正の知名度を向上させようと、加来さんをはじめ著名な方々にご協力いただき、講演会などを予定しています。

また、由利が発明し、福井市毛矢を中心に普及していたとされる「三岡（由利の旧姓）へっつい」というかまどの情報を集め、復元を進めています。

今後は、北陸新幹線や中部縦貫自動車道など高速交通網が整い、福井の魅力を発信する好機を迎えますから、「三岡へっつい」のような身近な話も織り交ぜながら、福井の魅力を分かりやすく、全県一丸となってアピールしていきたいと思います。